



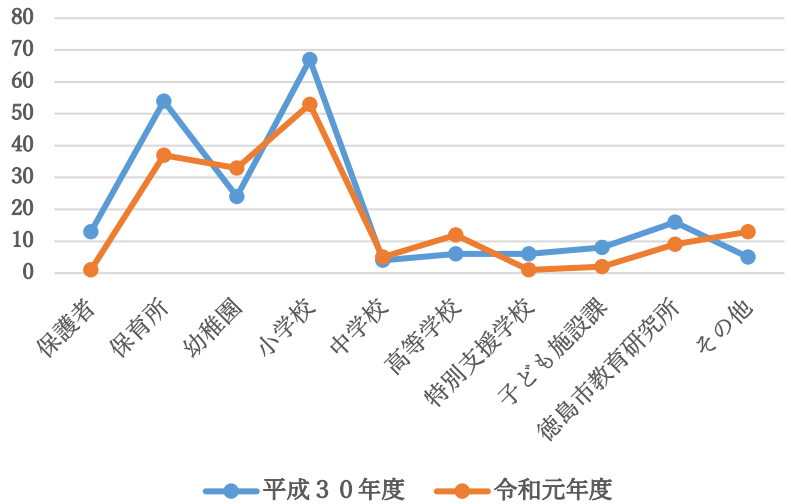
今回は、令和元年度校外支援の依頼者と依頼内容についてお知らせします。  
 本校、センター的機能における、本年度の校外支援の実施件数は166件でした。  
 昨年度は、203件でした。以下に、依頼者と依頼内容をお知らせします。



1. 依頼者

	保護者	保育所	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	子ども施設課	徳島市教育研究所	その他
件数(件)	1	37	33	53	5	12	1	2	9	13
割合(%)	1	22	20	32	3	7	1	1	5	8

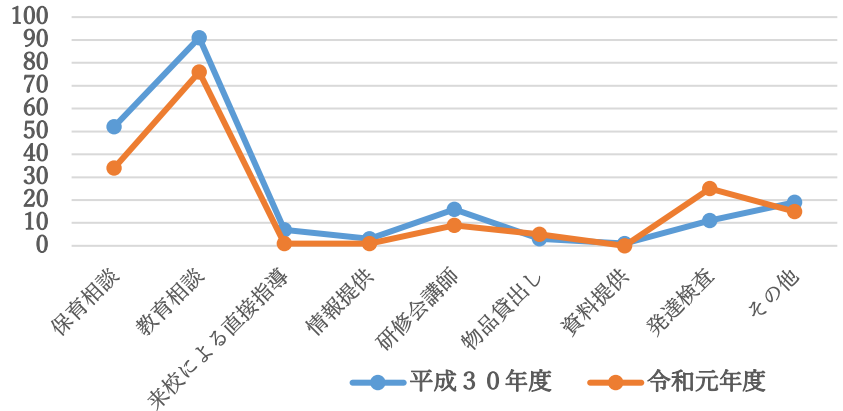
(件数) 依頼者 平成30年度と令和元年度の比較



2. 依頼内容

	保育相談	教育相談	来校指導	情報提供	研修会講師	物品貸出し	発達検査	その他
件数(件)	34	76	1	1	9	5	25	15
割合(%)	20	46	1	1	5	3	15	9

(件数) 依頼内容 平成30年度と令和元年度の比較



令和元年度の依頼者は、小学校、保育所、幼稚園、高等学校の順に多くなりました。平成30年度と比較すると、保護者、保育所、小学校からの依頼が10件程度少なくなりましたが、幼稚園と高等学校からの依頼が少し増えました。

令和元年度の依頼内容は、教育相談、保育相談、研修会講師、発達検査の順に多くなりました。平成30年度と比較すると、発達検査の件数が少し増えました。

実施件数は昨年度より減りましたが、両年度とも、小学校、保育所からの依頼が多かったこと、今年度は幼稚園からの依頼が増えたことから、本校のセンター的機能を考えると、就学前の幼児と就学後の児童の相談のニーズが高く、これらのケースに対応できる力が求められると考えます。具体的には、早期発達支援、通常学級の中で個別的な教育的ニーズがある子どもたちへの支援の方法等、学んでおくことが必要です。発達検査の依頼も多いので、検査スキルの習得も必要です。また、高等学校からの依頼が、平成30年度と比較すると2倍増えました。幅広い知識と相談活動に生かせる実践力が必要です。研修や書籍等で学び、学んだことを実践して、相談活動のスキルを向上して欲しいと思います。